

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101478		
法人名	社会福祉法人 神楽会		
事業所名	グループホーム 街の夕陽が丘		
所在地	長崎県長崎市築町3-1		
自己評価作成日	令和4年2月28日	評価結果市町村受理日	令和4年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和4年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスで外出する機会が減っているため、施設にいても楽しんで頂けるように行事、レクレーションを充実させ、みなさんと笑って過ごして頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、3ヶ月毎に“虐待の芽チェックリスト”を用い、職員会議で検討している他、“不適切ボックス”に、気になる言葉の言い換えを募り、日々の支援に活かしている。職員自ら意識して、利用者の尊厳を守り質の高いケアに繋げる取組みは高く評価できる。書面会議では、ヒヤリハットを多く上げ、事故を未然に防ぐ取組みを伝える等、議事録は透明性があり、サービスの向上に繋がっている。新型コロナ禍の面会制限下で、家族の不安を軽減するため、毎月、写真と状態報告書送付に加え、電話やLINEで動画や写真を頻りに送る等、元気な様子を伝えている。四季折々の年間行事は、職員が企画したアイデア満載の催しとなり、利用者の笑顔を引き出している。理事長に職員の意見が直接届く職場環境であり、理事長はIT化やデジタル化を視野に、仕事の効率向上のための道標を示している。リビングでは、利用者同士、また、職員との共同生活が確認でき、まさしく、理念「大家族をつくらう」を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと rinenn 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「大家族をつくろう」との理念を5つの方針と共に利用者への尊敬の念を持ち、その人らしく過ごして頂けるように実践に努めている。	毎年、理事長は講話の中で、理念の大切さを職員に伝えている。認知症を理解し、迷う時は会議の折に支援の在り方を全職員で検討している。管理者は、理念実践のための5つの方針をもとに、繰返し伝え、理念の浸透を図っている。利用者の笑顔から、楽しい共同生活の様子が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年、自治会の担当で地域の方とは交流出来ているが、コロナウイルス拡大の為に入居者様との交流は控えている。	今年度、自治会の当番制で世話役となり、管理者が挨拶回りの他、会長に広報紙を届けたり、会費の集金の際に顔なじみが増えている。近隣住民の見学や知人の訪問がある等、新たな交流も広まりつつある。今後、園児や学童、実習生との交流の機会を構想中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域との交流は出来ないが、研修や日々の実践を通して職員は知識や支援方法を学び、電話での相談等がある際はお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大の為にホーム内の会議は中止している。書面にて活動内容等の報告をし、郵送している。意見書も一緒に同封し、サービスの向上に活かしている。	新型コロナの為、年6回の書面会議である。メンバーに資料を先行配付後、意見書や質疑回答を記した議事録と共に、全家族に送付している。ヒヤリハットを多数上げた議事録は、詳細で透明性がある。事故を未然に防ぐ事業所の取組みを家族に報告する等サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と電話やメール、FAX等にて協力関係を築いている。行政からの研修については職員は参加している。	事業所の状況報告に対しての意見を得たり、事業所で判断に困る時等には、電話やメール、ファクスを通じて、行政と情報交換し、協力関係を築くよう取り組んでいる。行政からの情報を得て、案内がある研修には、職員は積極的に受講したり、オンラインで参加する等、研鑽を積んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて定期的に身体拘束・虐待の研修を行っており、日ごろから職員間でスピーチロック等を注意し合う事で身体拘束・虐待を未然に防ぐ。	身体拘束適正化の指針を作成しており、3ヶ月毎に“虐待の芽チェックリスト”を基に、不適切ケアや言葉の拘束等を全職員で振り返っている。“不適切ボックス”を活用し、気になる言葉を丁寧な言葉に置き換え支援に活かしており、職員自らが意識を持ち、拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて定期的に身体拘束・虐待の研修を行っており、日ごろから職員間でスピーチロック等を注意し合う事で身体拘束・虐待を未然に防ぐ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を法人内研修で学んでいる。成年後見制度等をケアマネジャーを中心に支援が出来る体制を作るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際や改定がある際など十分な時間を取り、不安や疑問等を丁寧に説明して理解して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やメール、面会時などを活用して意見、要望等を話す機会を作っている。又、行事風景や様子をメールで送ったり、写真を郵送し報告している。毎月、状態報告書をご家族様へ郵送している。	契約時に重要事項説明書を基に意見苦情の窓口等を説明している。入居当初は家族から頻りに電話があり、安心できるよう本人の様子を伝えている。新型コロナ禍では、月1回15分として居室での面会を支援している他、他県の家族にはタブレットでのテレビ電話を活用しており、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議にて意見交換・要望を行っている。管理者・主任より定期的に各職員への個人面談を行い、自分の意見や考えを話せる環境を作っている。	毎月職員会議を行い、毎月の目標を設定している。更に職員一人ひとりの個人目標を設定し、半年に1回達成状況を振り返っている。事業所には理事長が毎月訪れており、職員と1対1で話し要望を聞き取っている。職員の希望から休憩場所、休憩時間の確保に繋がるなど意見の反映が確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議にて、職員の個々の状態報告や職場環境等について報告・相談を行っている。毎月、代表者の訪問があり、職員と交流を作っている。職員の個々の能力、実績等を把握して、各自が向上心を持って働けるようにキャリアパスを導入していく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、内部研修、外部研修、個人面談での各人の目標設定等で技術や知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナウイルス感染拡大により同業者との交流は電話やメール、研修のみである。法人内については他事業所へのヘルプを通じて職員間の交流を行っている。各管理者同士は定期的に情報交換や会議を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様や本人様の要望をお聞きし、応えられるようにプランニングし、サービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との関係を構築し、信頼して本人様をお預かり出来るように努めている。本人様だけではなく、ご家族様の悩みや疑問にお応え出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や目標等をしっかりと伺い、本人様やご家族様が望まれるサービスの提供を行っている。不安や心配も強いと思われるため、気がけて支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	【大家族をつくろう】という理念を追求し、お互い信頼関係が出来るように、普段から努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も一緒に本人様を支えて頂き、包括的なケアが出来るように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	引き続きコロナによる制限が続いており、なかなか頻繁にお逢い出来る機会を設けることが出来ないため、写真や電話、SNS等を活用し、連絡がとれるように工夫している。	本人の馴染みの関係は、家族に尋ねている。新型コロナ禍前は囲碁仲間が訪れたり、家族と一緒に美容室に出掛けており、収束後は再開を予定している。職員は、ぬり絵や裁縫、洗濯たたみなど、利用者がこれまでの習慣や得意な趣味を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体状況や介護度の状態を鑑みて、座席や居室の設定している。お互いにお声掛けして下さったり、介助して下さる場面もあるため、見守りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も継続的に連絡を頂き、近況を聞かせて頂いている。その際の相談や支援は、出来る限り行えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様の希望や以降を伺い、把握出来るように努めている。困難な場合には、本人様の意向に添えるように努めている。	不安な様子の利用者には居室で昔の仕事の話などを聞いたり、入浴時に1対1で兄弟のことや昔の話やゆっくりと聞いている。意思疎通が困難な場合は、表情から推測する他、選択肢を準備して判断を仰いだり、家族に尋ねている。聞き取った内容は職員間で共有しているものの、集約はこれからである。	利用者一人ひとりの生活を豊かなものにしていくために、聞き取った思いや意向を集約する工夫や支援に繋げていく方法や仕組み等、検討及び取組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様に伺い、把握に努めている。また本人様が希望であれば、ご家族様にもお伝えし、叶えられるように支援させて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や顔色、バイタル測定等、体調の変化が無い意識し観察行っている。会話やご様子等を通して心身面の状態把握が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議・カンファレンスを行い、計画書の変更や確認を行っている。本人様に沿った計画書を作成できるように努めている。	入居前の初回面接やサマリーを基に、暫定プランを作成し、1~3ヶ月を目途に長期1年、短期6ヶ月の介護計画に移行している。ケアマネジャーは、担当職員のモニタリングとカンファレンスでの職員の気づきを基に計画に反映している。身体状況や本人の気持ちに変化があれば、計画を見直しており、家族の了承を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し、ケアの実践や計画書作成に反映させている。気づきや工夫等も共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化や希望等があった際には、担当者会議やカンファレンスを行い、本人様の希望に沿った支援の提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治体や周りの商店街・保育園等、今後連携や協力して頂ける施設やお店を増やし、心と身体の豊かさを実感出来るような生活の支援援助に努める。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回協力医、月に1回歯科医による定期健診・往診を行っている。週に1回、看護師による定期訪問も行っており、特変時や緊急時は、協力医へ連絡行うことで指示を仰いでいる。協力医以外の受診は、家族や職員で協力し、支援している。	協力医や歯科医の定期往診他、看護師が定期訪問し、利用者の健康観察を担っている。他科は、主治医と相談し、受診や薬処方のみで対応しており、職員と家族が協力して支援を行い、結果も共有している。特変時、24時間対応の看護師が判断に迷う時は、主治医の助言を得て、医療機関への搬送等、適切な医療体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師による定期訪問を行い、健康管理を行っている。日常時の中で気づいたことや特変時等は連絡・相談を行っている。随時、協力医には状態報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して病院での治療が出来るように、家族や医療関係者と情報交換・連絡をし、相談しながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際や終末期に向けた方針については、入居された段階で説明を行い、同意を得ている。今後そのような状態になった際には、協力医やご家族と情報交換・連絡を行い相談しながら対応させて頂く。	入居時に、看取り指針や重度化指針を基に、事業所では、医療行為を伴わない看取り支援は行うことを家族に説明、同意を得ている。利用者の体調変化により、継続した入居が難しい時は、主治医、家族、事業所で協議を行うこととしている。看取りの事例はないが、職員は、法人研修に参加しており、気づきや学びを得る機会を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時に対応できるようにマニュアルや連絡体制の構築は出来ている。有事の際には管理者・看護師に報告し協力医に連絡し指示を仰いでいる。事故後は対策・対応を話し合い、再発防止に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月1回は消防訓練を行っている。年2回の消防署立ち合いの避難訓練は、コロナの影響で、今年度も行えなかった。地震や防犯・水害時のシュミレーションやハザードマップの確認等も行っている。	年2回の消防署立会いと同建物内従業者参加の火災訓練は、新型コロナ禍であるため中止している。毎月昼夜想定で、人形を使用した避難誘導訓練他、夜勤者1人の訓練も行っている。自然災害は、状況により安全に考慮して、事業所内に留まるとしており、備蓄品を整備している。ただし、災害時の利用者情報が未整備である。	有事の際、避難先で他者に協力を得る時に、利用者が今までと同じ支援が受けられるよう、非常持出用として個人情報の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様へのトイレの聞き取りでは傍に寄って行い、申し送りの際は職員間で分かる言葉を使用し羞恥心に配慮している。利用者様を苗字でさん付けで呼んでいる。言葉がけも含めて不適切なケアを行っていないか3か月おきにアンケートを実施しケアへの振り返りを実施している。	職員は利用者の人格を尊重した支援に努め、苗字にさん付けで呼んでいる。更に記録類は個人名ではなく居室番号を用いると共に、排泄状況の共有は職員間では合言葉を決めている。職員は守秘義務の誓約書を提出している。ただし、家族への写真掲載の同意はこれからである。	利用者の暮らしの様子がわかる写真を掲載する際は、公開範囲等を含め家族の同意を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際は個人の聞き取りを行い、家族の支援も含めて好んだ食材を提供している。医療機関とも相談しながら健康面の配慮している。また、食事や入浴、移動は利用者の意思を聞いてから行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の拒否も臨機応変に柔軟な対応をしている。レクリエーションも声掛けし利用者様の意向も取り入れながら実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎食後ホットタオルを使用し顔や手の清潔保持に努めている。2か月に1回の訪問散髪やカラーも実施している。入浴では本人の好みに髭を整えている。定期的に爪切りも実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者に委託しており検食当番職員が味付けや硬さなどを用紙に記入し報告している。肉がダメな利用者様には魚の代替食や好みに合わせて個人食材で提供している利用者様もおられる。鍋やそうめん流し、かき氷、季節感ある、おやつや食事も手作りや購入して提供している。	業者委託している。届いた料理は利用者に合わせて食べやすいよう一口サイズにカットし、残食状況を確認し、利用者の感想や意見を聞き、両者に渡す書式に記録している。おやつは手作りが多く、1月はぜんざいに小さな餅を入れて喜ばれている。昼食に鍋を出したり、敬老の日はちらし寿司、茶碗蒸しを作って祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の健康状態や好みを取り入れ飲料や個人食品を提供している。おかゆや白ご飯、赤飯も個々に合わせた提供をしている。ジュースや牛乳、ヤクルト、寒天など水分補給を取りやすいように工夫している。食事量や水分量は都度記録し、毎月の体重測定も実施し把握している。医療機関とも連携している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。個々の状態に応じて洗面台やテーブルを使用し磨き残しが無いか確認したり一部介助している。コロナ規制の緩和時は毎月1回は歯科往診にて口腔検診を行い治療や指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常的に排泄状況を記録しており職員間にて情報共有している。利用者に合わせて排尿リズムでの誘導や声掛けの実施。又は、オムツ選びやポータブルトイレ利用などを使い分けている。	職員は、日中は利用者全員にトイレでの排泄を支援している。排泄記録を付けており、特に尿意がない利用者には定期的に誘導している。布パンツで過ごす利用者もおり、夜間ポータブルトイレの使用もある。退院後、おむつからリハビリパンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを提供したり、ヤクルトや牛乳を飲んだり下剤でも排便コントロールを行っている。便秘があれば看護師や医師へ相談している。簡単な体操も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月曜から土曜日で週2回の入浴をして頂いている。固定日を作らずご本人様の意向を聞きながら入られている。ゆずやしょうぶ湯など季節を感じて頂けるように工夫をしている。	週2回の入浴を支援している。全員、浴槽に浸かっており、要望に沿って足浴も行っている。拒否の場合は、無理強いせず時間を置いて声掛けし、難しい時は翌日に支援している。脱衣所にヒーターを設置しており、寒暖の差が少ないよう配慮しており、肌の乾燥対策として毎朝、手足に保湿クリームを塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活リズムに合わせて午前や午後居室やソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が週替わりで利用者様の服薬を準備したり、確認している。また変更がある際は連絡ノートを活用して情報共有している。誤薬防止の為内服時は職員2名で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の興味や好きな事に合わせて塗り絵やクイズ、トランプ、イベント制作などを行っている。また、洗濯物たたみやテーブル拭き、ほつれ直し、簡単な食器洗いなど生活歴に合わせた役割をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策の為外出が難しくなっている。病院受診が外出のストレス軽減の機会となっている。花を飾ったり、外出気分が味わえるように弁当やテイクアウトを注文する等、少しでも気分転換が図れるように工夫している。	繁華街近くに位置しており、新型コロナ禍前はおくちやランタンフェスティバルに出掛けている。現在は、職員手作りのランタンをリビングに飾り、雰囲気を楽しんでいる。また、窓を開けたり、リビングの窓から差し込む陽で日光浴している。利用者は病院受診時に外に出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止の為、個人の物品の購入はご家族様の購入、もしくはご家族様の承諾の下で立替にて購入している。少額は個々の能力に応じてご自分で財布管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様やご家族様の希望に応じて職員より電話やリモート面会で話ができるように支援を行っている、		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節や行事の物を飾り毎日の掃除で換気や整理整頓も行っている。冷暖房器具や空気清浄機を用いて空調管理している。	リビングは、利用者が食事したり、おやつや季節の飾り物を作る他、利用者と職員が集って楽しむ寛ぎのスペースとなっている。外出制限下の室内で利用者が退屈しないよう、さまざまなアイデアを活かし活動を支援している。職員は、換気やこまめな清掃で感染症に気を配り、室内は、整理整頓を行い、快適な環境となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で雑談や色塗りをしたり、又は一人でテレビを見たり、ソファで横になって休むなど自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや小物を配置したり、ご家族様の写真を置いて安心して心地よく過ごせるようにしている。	居室には、本人が使い慣れた物を持ち込め、テレビやテーブルや椅子、木の筆筒は家庭の温もりがある。家族アルバムや週刊誌は、家族面会時に、利用者との話のきっかけづくりとして利用している。ヘアブラシや化粧品、携帯電話等、利用者の使い勝手がいいように配置している。職員による換気や清掃で、清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせた物の配置を行っている。階段使用時は傍で見守りしたり、分からないところは声掛け支援している。		